

平成28年10月17日

平成28年度病害虫発生予報第7号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
大豆	吸実性カメムシ類	並	やや多
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類、オオタバコガ	やや少 並 並	並 並 並
いちご (本圃)	うどんこ病 炭疽病 (<i>G.cingulata</i>) アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 やや多 少 少 やや多	並 やや多 やや少 やや少 やや多
ブロッコリー	コナガ ヨトウムシ類 オオタバコガ	やや少 やや少 やや少	やや少 やや少 やや少
レタス	ハスモンヨトウ オオタバコガ	並 並	並 並
かんきつ	緑かび病、青かび病 ミカンハダニ	並 並	並 やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

大豆

1. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(9筆)の結果、寄生株率は0.9%(1.4%)、株当たり虫数は0.01頭(0.02頭)、発生圃場率は11.1%(18.8%)であった。

イ 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は40.0%(40.3%)、株当たり虫数は1.0頭(0.74頭)であった。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は主に着莢部に生息するので、薬剤が着莢部によくかかるよう防除を行う。
イ 9月に防除を実施した圃場でも、子実肥大後期まで加害するミナミアオカメムシの発生が多く認められる圃場では追加防除を行う。

ウ ミナミアオカメムシに対しては、合成ピレスロイド系薬剤で感受性の低下が報告されているので、薬剤の選定に当たっては十分注意する。

エ 収穫前日数に気をつけて薬剤を選択し、使用基準を遵守する。

ばれいしょ

1. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率1.1%、発生圃場率19.0%)。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は塊茎えそ病などのウイルス病を媒介するので発生初期からの防除を行う。

イ 下位の葉裏に寄生が多いので、薬剤散布は葉裏に薬液が十分かかるようにする。

2. ジャガイモガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は0.3%(1.1%)、発生圃場率は10.0%(14.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 土中のいもが産卵を受けないよう土寄せを十分に行う。

イ 圃場での発生に注意し、ヨトウムシ類と併せて薬剤散布する。

3. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)、オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、ヨトウムシ類の被害株率は4.0%(2.3%)、発生圃場率は35.0%(29.7%)であった。

イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、8月6半旬にピークが見られ、その後も平年並~高めに推移している(図1)。

ウ シロイチモジヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、9月1半旬にピークが見られ、その後増減はあるものの、9月4半旬以降は平年並で推移している(図2)。

エ オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、9月2半旬にピークが見られ、その後は平年より少なく推移している(図3)。

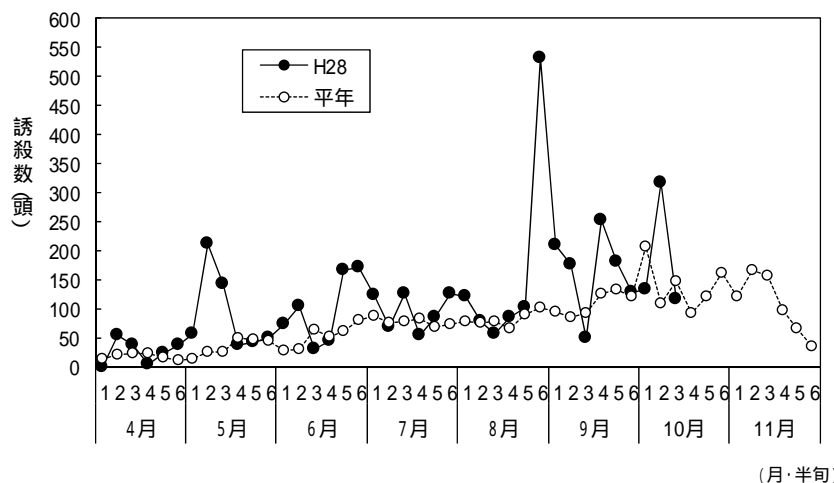


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)
平年: H18~27年の平均値(最大・最小値除く)

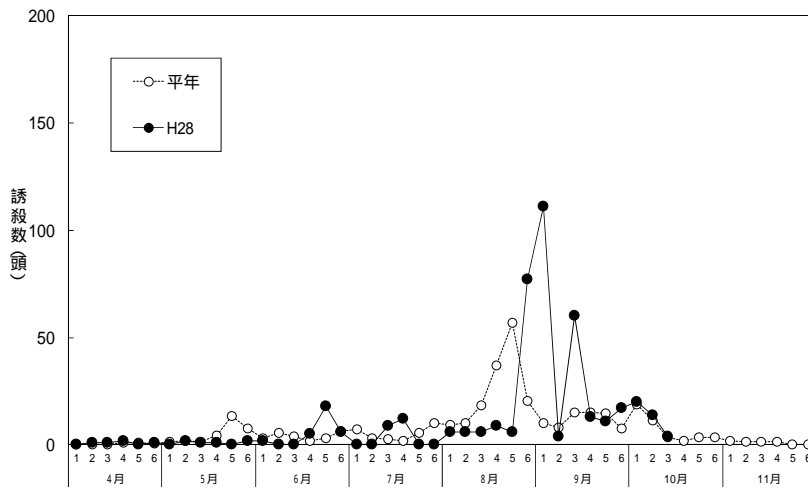


図2 シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越) (月・半旬)
 平年:H18~H27の平均値(最大・最小除く)

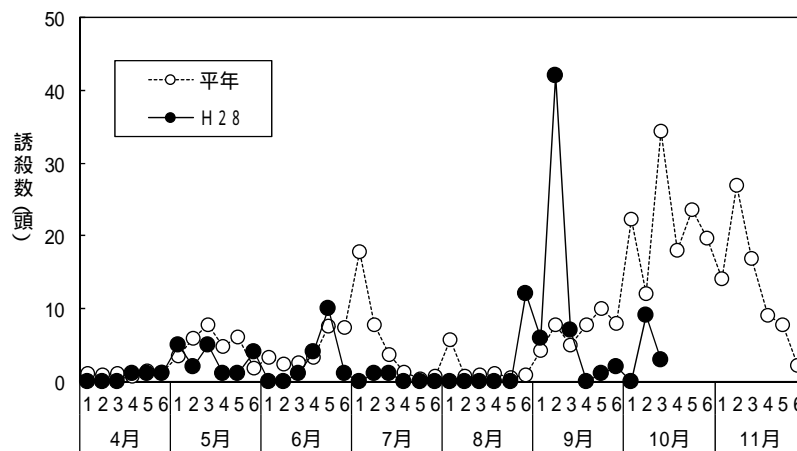


図3 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況
 H22より粘着板からファネルトラップに変更 (諫早市小船越町)
 平年:H18~H27の平均値(最大・最小除く) (月・半旬)

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.0%)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 果実への感染を防ぐため、開花期までの予防散布に重点をおく。
- イ 罹病葉や不要な下葉はできるだけ除去し、圃場外へ持ち出して処分する。
- ウ 薬剤は、古葉等を除去処分した後に、葉裏や下位葉にもむらなくかかるように十分量を散布する。
- エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.05%(0.1%)、発生圃場率は18.5%(7.0%)であり、一部多発生圃場があった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本病の感染に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

萎凋・枯死株は見つけ次第除去し、本圃内に放置しない。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.7%(2.1%)、発生圃場率は3.7%(20.9%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率2.9%、発生圃場率23.7%)。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、食害株率は10.1%(7.5%)、発生圃場率は81.5%(64.6%)、寄生株率は3.1%(2.1%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫の齢期が進むにつれ薬剤の効果が低下するので、圃場をよく観察して早期発見に努め、若齢期のうちに防除する。

ブロッコリー

1. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(9筆)の結果、寄生株率は1.8%(過去9年平均2.8%)、発生圃場率は11.1%(過去9年平均28.6%)であった。

2. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(9筆)の結果、ハスモンヨトウの発生を認めなかった(過去9年平均寄生株率4.6%、発生圃場率36.9%)、シロイチモジヨトウの寄生株率は1.3%、発生圃場率は22.2%であった。

イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、8月6半旬にピークが見られ、その後も平年並~高めに推移している(ばれいしょの項参照)。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップ（諫早市）による誘殺数は、9月1半旬にピークが見られ、その後増減はあるものの、9月4半旬以降は平年並で推移している（ばれいしょの項参照）。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかった（過去9カ年平均寄生株率0.4%、発生圃場率6.0%）。

イ オオタバコガのフェロモントラップ（諫早市）による誘殺数は、9月2半旬にピークが見られ、その後は平年より少なく推移している（ばれいしょの項参照）。

レタス

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査（9筆）の結果、寄生株率は0.44%（寄生株率0.5%）、発生圃場率は11.1%（8.7%）であった。

イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ（諫早市）による誘殺数は、8月6半旬にピークが見られ、その後も平年並～高めに推移している（ばれいしょの項参照）。

2. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率0.04%、発生圃場率1.0%）。

イ オオタバコガのフェロモントラップ（諫早市）による誘殺数は、9月2半旬にピークが見られ、その後は平年より少なく推移している（ばれいしょの項参照）。

かんきつ

1. 緑かび病、青かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（発病果率0.0%、発生圃場率0.3%）。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は4.3%（3.9%）、発生圃場率は25.0%（34.6%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

【参考】
気象

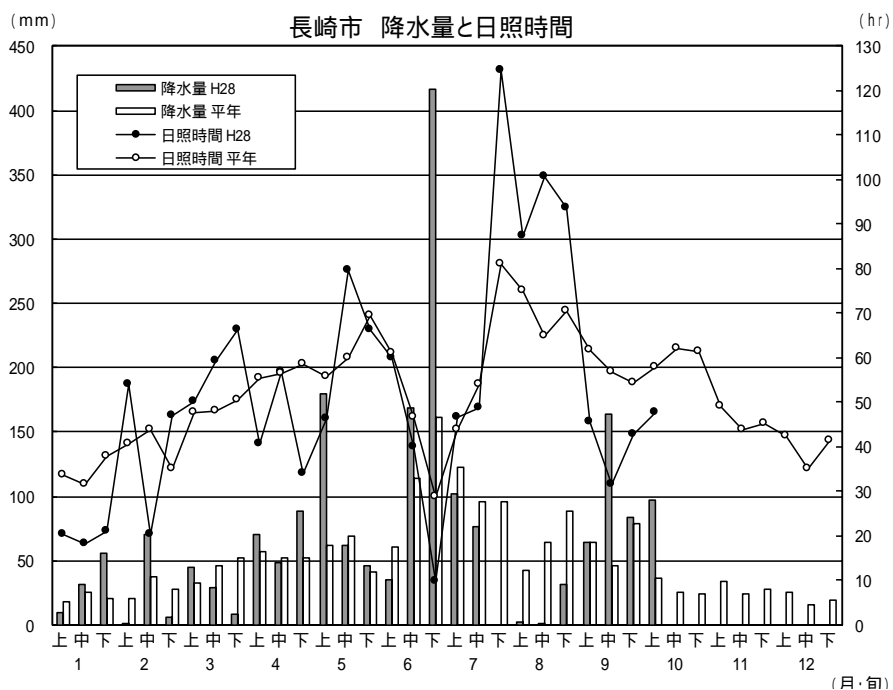
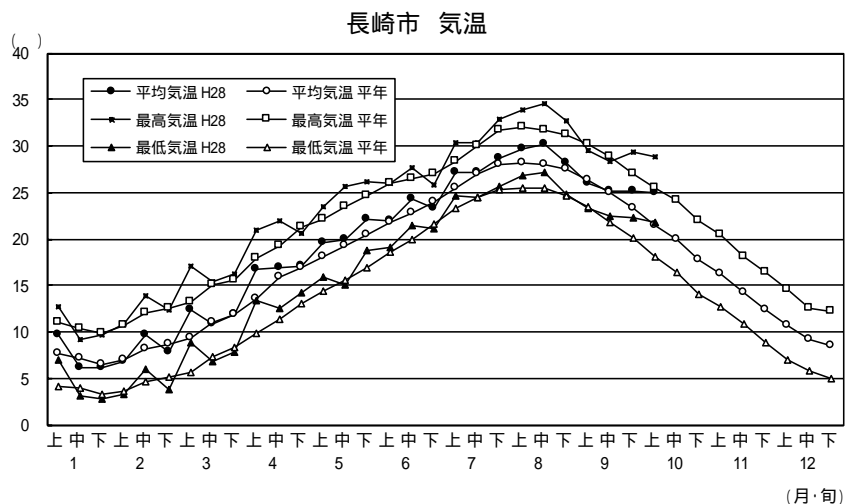
(平成28年10月13日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

予報対象地域：九州北部地域

平成28年の気象経過(長崎地方気象台)



長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>
この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。
長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

